

○実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(令和6年度)

実務経験のある教員等による授業科目の単位数の合計 59単位

授業科目			配当年次・学期		講師名	実務経験年数	専門領域	授業科目概要・目標	単位	時間数
基礎分野	組織論		1年	後期	大塚 まり子	41	看護師	1.看護師として働くうえで必要な組織の成り立ち、組織と人の関係を理解する。 2.組織の中で働くことの意味を理解し、組織の中での自らの働き方について考える。	1	30
	人権論		2年	前期	信友 浩一	12	医師（呼吸器内科）	自他の不平等を徹底的に嫌う	1	30
	看護と音楽		3年	後期	末次 輝子	18	中学校教員一級免許 高等学校教員二級免許（音楽）	1.癒しとして音楽の意義を理解する。2. 対象の癒しとして、具体的な音楽の活用方法を知る 3.自らも音楽を聴く、歌うことにより癒しを体験する。	1	15
専門基礎分野	病理学		1年	前期	池田 圭祐	33	医師（消化器内科・病理診断科専門医）	1. 疾病になる原因と、疾病によって患者の身体に生じている変化を理解し、臨床での看護の判断力を養う。	1	30
	疾病と治療Ⅰ	アレルギー呼吸器	1年	前期	古賀 丈晴	36	医師（内科・呼吸器・アレルギー・感染症専門医）	1. 呼吸器疾患・アレルギー疾患と循環器の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	1	30
					山部 仁子	21	医師（呼吸器・神経・膠原・内科専門医）			
		循環器疾患			堀 真貴子	13	医師（循環器専門医）			
					未定					
	疾病と治療Ⅱ	消化器疾患	1年	後期	河口 康典	24	医師（内科・消化器・肝臓・内視鏡専門医）	1. 消化器疾患と内分泌疾患・代謝疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	1	30
					福島 康道	14	医師（消化器内科専門医）			
		内分泌・代謝疾患			山田 研太郎	46	医師（内科・糖尿病・内分泌代謝・肥満症専門医）			
	疾病と治療Ⅲ	腎	1年	後期	森山 敦夫	43	医師（内科・循環器・腎臓・透析専門医）	1. 血液疾患、膠原病、皮膚疾患と腎・泌尿器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	1	30
		泌尿器疾患			三谷 智太郎	13	医師（泌尿器専門医）			
		血液・造血器・膠原病			草場 信秀	34	医師（内科・消化器・血液・肝臓専門医）			
		皮膚疾患			松元 二郎	36	医師（皮膚科専門医）			
	疾病と治療Ⅳ	脳神経疾患	1年	前期・後期	未定			1. 脳疾患と運動器疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	1	30
		運動器疾患			吉光 一浩	23	医師（整形外科専門医）			
	疾病と治療Ⅴ	小児疾患	2年	前期	黒田 直宏	24	医師（小児科専門医）	1. 精神疾患と小児疾患の病態生理、検査・治療等について理解し観察力と看護における臨床での判断力の基礎を養う。	1	30
					深堀 優	26	医師（小児科専門医）			
		精神疾患			吉良 健太郎	12	医師（精神科専門医）			
	疾病と治療Ⅵ	歯科口腔疾患	2年	前期	羽野 和宏	7	医師（歯科口腔外科）	1. 眼科疾患、耳鼻咽喉器疾患、歯科口腔疾患、精神疾患の病態生理、検査・治療等について理解し看護における臨床での観察力と判断力を養う。	1	15
		眼科疾患			井上 浩利	21	医師（眼科専門医）			
		耳鼻科疾患			富田 和英	27	医師（耳鼻咽喉科専門医）			
	栄養学		1年	前期	小島 良子	50	管理栄養士	1. 生体に必要な栄養素のはたらきを理解する。 2. 栄養と疾病の関係と人の身体で起きている変化を理解し、看護における臨床での判断力の基礎を養う。 3. 食事の重要性や食生活に伴う健康問題について学び臨床で活用できる知識を養う。	1	30
	薬理学		1年	後期	江藤 良典	39	薬剤師	1. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響を理解する。 2. 薬物の管理について理解し臨床で活用できる。 3. 薬物投与における身体の変化及び生活への影響を理解し、看護の判断につなげる力を養う。	1	30
	看護臨床判断の基礎（看護へつなぐ）		1年	前期	池田 陽子	9	看護師	1. 解剖生理学・生化学と疾病と治療Ⅰ～Ⅳ、病理学、微生物学の知識のつながり、および薬理学、栄養学の知識のつながりを事例を通して一連の流れとして理解する。2. 病気や検査治療によって引き起こされる身体の変化を身体の機能と働きからつなげて考えることで対象の心身で起きていることを理解し、看護における判断の基礎的能力を養う。	1	30
	医療と社会		1年	前期	泉 賢祐	15	社会福祉士	1. 現代の医療を取り巻く状況の変化の中で、医療がおかれている状況や医療における諸問題を学ぶ。 2. 現代の医療を理解するうえで必要な概念を理解する（ノーマライゼーション・インフォームドコンセント・プライマリケア・保健医療福祉システムと地域住民の役割） 3. 医療従事者としてどのような姿勢で学んでいくか考えるきっかけとする。	1	20
	社会福祉学概論		2年	前期	泉 賢祐	15	社会福祉士	1. 社会福祉の変遷や基本理念・概念を理解し、社会保障制度の内容とその背景を理解する。 2. 人々が生涯を通じて健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基本的能力を養う。	1	15
	社会福祉学方法論			前期				1. 社会福祉の法制度を理解し、対象の望む生活の実現に向けて活用方法を学ぶ。	1	15

授業科目			配当年次・学期		講師名	実務経験年数	専門領域	授業科目概要・目標	単位	時間数
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1年	前期	瓜生 知佳子	7	看護師・保健師	看護学を履修するときの最初に学習する専門科目である。 看護を学ぶにあたって看護の導入として捉えると共に看護の持つ豊かさや奥深さに触れる機会としたい。1. 看護、看護学、看護師とは何か、どのような職業なのかを体験をもとに学び、興味・関心をもつ。2. 看護における重要な要素である看護倫理の基礎を学ぶ。3. 看護を考えるうえで重要な「健康」「人間」「環境」「生活」を基礎要素として学ぶとともにそれらとの関係性の中で「看護」を考え看護の意義について理解する。 4. 看護理論を使って対象理解や現象の理会の方法を学ぶ。	1	30
		基礎看護技術Ⅰ	1年	前期	皆元 謙治	15	看護師	看護を行う上で基礎となる看護技術である。看護の判断力を使って、看護の実践を行うために必要な技術を学ぶ。 1. 看護技術を行うため必要な技術の考えを学ぶ 2. 人間関係を成立させるための技術としてのコミュニケーションの基礎的知識を学び、ロールプレイングを行いながら看護の場面で活用できるための能力を身につける 3. 看護実践のベースとしての感染予防を学ぶ。 4. 活動や休息を支援する技術を学び実践できる 5. 看護を実践するために必要な看護の思考過程を学ぶ。	1	30
					井上 聡子	16	看護師			
					朝倉 美弥香	24	看護師			
		基礎看護技術Ⅱ (ヘルスアセスメント)	1年	前期	伊藤 哉女	17	看護師	看護の判断力を使うために最も重要なフィジカルアセスメント・ヘルスメントを学ぶ。視診・聴診・打診・触診・問診等を使って、対象の心身の状態を判断するための技術を学ぶ。 1. ケアをするための前提として必要となるフィジカルイクザミネーション・フィジカルアセスメントを学ぶ。 2. 生活者として捉えてアセスメントするためのヘルスアセスメントを学ぶ。	1	30
					江田 万里子	20	看護師			
		日常生活援助技術Ⅰ	1年	前期	佐々木 京子	26	看護師・社会福祉士	1. 健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学をつなげて援助をとらえることができる 2. 看護の対象の生活過程を整えるため、その援助法方法を習得する。 ①環境が人に与える影響を理解し、快適な環境を作るための技術を学び実践する②身体の清潔を援助する技術を学び、実践できる	1	30
					中野 弘貴	14	看護師			
		日常生活援助技術Ⅱ	1年	前期 ～ 後期	林 利奈	30	看護師	1. 健康生活の維持や疾病回復の過程を「生活する視点」から諸科学をつなげて援助を捉えることができる。 2. 看護の対象の生活過程を整えるため、その援助方法を習得する。 ①食事、栄養摂取を安全に行うための技術を学び実践できる ②排泄援助を受ける対象の心情を理解し、安全安楽な排泄援助を学び実践できる	1	30
					櫛下町 さおり	23	看護師			
					朝倉 美弥香	24	看護師			
		診療に伴う技術Ⅰ	1年	後期	熊添 智春	20	看護師	1. 診療、検査。治療処置をうける対象への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解する。2. 対象への安全で安楽な看護技術の援助方法を身につける。 ①検査、治療を正確、安全に行うための技術を学び実践できる ②呼吸を楽にする技術を人間の解剖学的視点から理解し実施できる ③体温を調整する技術を人間の解剖学的視点及び症状発生のメカニズムを理解し実施できる ④褥瘡の発生メカニズムを理解し、対象に適した看護を実施できる。	1	30
診療に伴う技術Ⅱ	1年	後期	江田 万里子	20	看護師	1. 診療、検査、治療処置をうける対象への援助及び診療補助技術が身体に及ぼす影響を理解する。 2. 対象への安全で安楽な看護技術の援助方法を身につける。 ①与薬を正しく行うために必要な知識を理解し、正確な手法で実施できる。 ②輸血の種類、保管、取り扱い、副作用等理解し、正しい手技で実施できる。 ③死者の尊厳を保つことができるようなエンゼルケアを実施できる。	1	30		
看護研究の基礎	1年	前期	馬場 若美	21	看護師	1. 看護における研究の意義・役割を理解し、文献検索の重要性と積極的活用の基礎を学ぶ。 2. 看護実践を振り返る際、活用できるための研究の方法についての基本的知識を習得する。	1	15		
臨床につなげる看護技術Ⅰ	2年	前期	皆元 謙治	15	看護師	1.看護判断を行うための思考過程を学び、シミュレーションを通して活用する。 2. さまざまな健康上のニーズをもつ人々に、既習の個々の知識を統合し、対象の状態と対象に適した看護の実践を判断した上でシミュレーションをしながら学ぶ。	1	30		
臨床につなげる看護技術Ⅱ	2年	後期	堀内 幸代	11	看護師	1. 看護判断を行うための思考過程を学び、シミュレーションを通して活用する。 2. 医療機器を装着している患者の観察と看護を実践できる。 3. 医療機器を装着している患者に対し、既習の個々の知識を統合し、対象の状態と対象に適した看護の実践を判断した上でシミュレーションをしながら学ぶ。	1	30		
看護学概論Ⅱ	3年	後期	瓜生 知佳子	7	看護師・保健師	看護を学んできた成果のまとめと、今後の看護の広がりを学ぶことで自らの看護観を考えるきっかけとしてほしい。1. 看護学実習で受け持った対象を1例選定し、ケーススタディを行う。 2. 臨地実習で感じた倫理的課題を見出し、倫理的課題の対応方法を学ぶ。3. 求められる看護の姿とこれからの看護の展望とを考え自らの看護方向性を考えるきっかけとする。	1	30		

授業科目			配当年次・学期		講師名	実務経験年数	専門領域	授業科目概要・目標	単位	時間数
専 門 分 野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	1年	前期	佐々木 京子	26	看護師・社会福祉士	1. へき地医療同行経験を通して、地域で生活する人々の暮らしを経験的に知る。 2. 人が生活する、暮らすということについて理解する 3. 地域・在宅看護を取り巻く社会の現状や時代背景及び歴史の変遷を学び、在宅看護の意義や目的を理解する。 4. 在宅看護における倫理について理解する。	1	15
		地域・在宅看護概論Ⅱ	2年		岩橋 千代	22	看護師・緩和ケア認定看護師	1. 在宅看護の対象となる人とその家族を理解する。 2. 療養者が生活する地域の特徴と地域が療養者、家族に及ぼす影響を理解する。 3.在宅看護に必要な理論を理解し、在宅における看護過程を学ぶ。4. 在宅医療者の権利擁護として自己決定の必要性を学ぶ。	1	30
					佐々木 京子	26	看護師・社会福祉士			
					長尾 一樹	18	看護師・認知症看護認定看護師			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	2年		福田 輝和	26 6	理学療法士 介護支援専門員	1. 在宅で療養するためのシステムと制度を理解する ①地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけと役割を学ぶ。 ②ケアマネジメントの基礎と在宅で行われている実際を学ぶ。 ③地域連記クリティカルパスについて理解する。 ④退院支援・退院調整の必要性と、入院から退院後の生活を支援するための考え方を学ぶ。 2. 在宅療養者をチームで支えることの意味と連携協働を学ぶ 3. 事例を使い、在宅療養を支えるために、訪問看護が行うアセスメント、直接的な看護技術の提供、家族支援等総合的に行うことができる。	1	15
					牛島 けい子	24	看護師			
					佐々木 京子	26	看護師・社会福祉士			
		地域・在宅看護技術	2年		岩橋 千代	22	看護師・緩和ケア認定看護師	在宅で看護実践を行う際の技術提供の基本となる技術、日常生活援助技術、診療の補助技術を具体的な事例を使いながら実践的に学ぶ。 1. 在宅療養を支えるための基盤となる訪問技術や在宅看護過程、コミュニケーション技術を学ぶ。 2. 日常を支える生活の中で行う看護技術を学ぶ。 3. 療養を支える医療ケアの技術を学ぶ。 4. 療養者、家族の自立を促す為の、学習支援の技術を学ぶ。	1	30
					佐々木 京子	26	看護師・社会福祉士			
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	3年	後期	佐々木京子	26	看護師・社会福祉士	1. 事例をもとに、地域で生活しながら療養を行うことを支えるための制度や社会資源、福祉サービスの活用と看護師としての支援の方法を考える。 2. 在宅における倫理的課題を明らかにし、倫理的課題の対応方法を学ぶ。	1	15
	成人看護学	成人看護学概論	1年	後期	伊藤 哉女	17	看護師	生活をしている成人としての成長発達の特徴や役割、それに伴う特有の反応や健康問題について理論を用いて説明できる。 1. 成人としての身体的、精神的、社会的、また学習上の特徴を理解し生活や健康に及ぼす影響を理解する 2. 成人期の健康障害について理解する。 3. 成人期の対象への看護で必要な理論を理解し、対象に活用できる。 4. 成人期における対象を看護するための看護における臨床判断力を養う。 5. 成人期の対象を看護する際の倫理的課題を明らかにする。	1	30
		成人看護学方法論Ⅰ	2年	前期	中野 弘貴	14	看護師	急性期や回復期にある成人の患者と家族に対して、生命の危機を乗り越え、回復に向かうために必要な看護を学ぶ。 1. 急性期にある成人の患者の特徴を理解し、手術療法をうける患者への看護援助や生命の危機的状況にある患者への看護援助を学ぶ。 2. 回復期の成人の患者のセルフケア再獲得の看護介入について学ぶ。3. 事例をもとに急性期・回復期の患者を看護するための看護における臨床判断を学ぶ。 4. 事例をもとに急性期・回復期の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。	1	30
					日高 朋果	16	看護師			
					草場 昂	13	看護師			
		成人看護学方法論Ⅱ	2年	前期	鐘江 竜子	21	看護師	慢性期の病を持った成人の患者と家族が、生活者として病気や家庭、社会生活と折り合いをつけて生きていくことを看護としてどのように支援していくかを学ぶ。1.慢性疾患を持つ患者と家族の特徴と看護として必要なケアマネジメント支援を学ぶ。 2. セルフマネジメント支援に必要な理論を学び、事例を通して慢性期の患者を看護するための看護における臨床判断を学ぶ。 3. 事例をもとに慢性期の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。	1	30
					中野 弘貴	14	看護師			
		成人看護学方法論Ⅲ (緩和ケア・救急救命)	2年	後期	溝上 千代美	31	看護師 (緩和ケア認定看護師)	1. 緩和ケアの概念を学び、がん患者及び非がん患者への緩和ケアについて学ぶ。 2. 事例をもとに緩和ケアを行う患者、家族を看護するための看護における臨床判断を学ぶ。 3. 生命の尊厳やQOL等、倫理的配慮を含め事例を通して学ぶ。 4. 救急看護における知識・技術・態度を学び、臨床実践能力の向上を図る。 5. 救急看護における倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。	1	30
					吉宗 由美子	39	看護師			
		成人看護学技術	2年	前期	中野 弘貴	14	看護師	成人期の看護実践を行う上で、治療、検査に対する看護は重要である。疾患の検査、治療に対して安全、安楽に実施できるための看護技術を学ぶ。 1. 障害を受けた人が、直接的環境及び社会で生活できるように行うリハビリテーションの実際を学び、看護としての看護介入を学ぶ。 2.疾患の検査や治療で行われる身体侵襲を伴う医療技術を医学的根拠をもって理解し、患者が合併症や二次的障害を起こさないよう安全安楽な看護介入を学ぶ。 3. 事例を通して医療処置を受ける患者を看護するための」看護における臨床判断を学ぶ。	1	30
					下川 裕	19	理学療法士			
					小野 裕明	25	臨床工学士			
					半田 陽子	20	看護師			

授業科目			配当年次・学期		講師名	実務経験年数	専門領域	授業科目概要・目標	単位	時間数
専門分野	老年看護学	老年看護学概論	2年	前期	林 利奈	30	看護師	1. 老年看護の特徴、健康な高齢者の日常生活の保持・増進、老年看護の目的、役割、機能について学ぶ。 2. 高齢者を取り巻く社会情勢を理解し、法制度、施策及び高齢者の権利について学ぶ。3. 高齢者と家族を看護する際の倫理的課題を明らかにする。 4. 老化による身体的、精神的、社会的変化を体験的に知る。	1	30
		老年看護学方法論	2年	前期～後期	馬田 聡美	33	看護師	1. 高齢者の疾病・障害の病態を老化と関連して理解し、健康障害に応じた看護を理解する。 2. 健康障害が高齢者と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及び対象が望む生活への看護支援を学ぶ。 3.高齢者の強みをふまえたアセスメントができ、個々の高齢者に応じた看護が展開できるための看護を学ぶ。 4. 事例をもとに高齢者と家族の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。	1	30
					林 利奈	30	看護師			
					長尾 一樹	18	看護師（認知症看護認定看護師）			
	小児看護学	小児看護学概論	1年	後期	馬場 若美	21	看護師	1. 小児看護の特徴、健康な小児の日常生活の保持・増進、小児看護の目的、役割、機能について学ぶ。 2. 小児を取り巻く社会情勢を理解し、法制度、施策及びこどもの権利について学ぶ。 3. 健康な小児の成長発達を学ぶ。4. こどもと家族を看護する際の倫理的課題を明らかにする。	1	30
		小児看護学方法論	2年	前期	古賀 久美	29	看護師	1.小児の疾病・障害の病態を理解し 健康障害に応じた看護を理解する。 2. 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し予防、健康の回復及びよりよい成長・発達へ看護支援を学ぶ。 3. 事例をもとに子どもと家族の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。	1	30
					鐘江 竜子	21	看護師			
					林 さおり	30	看護師			
	小児看護学技術	小児看護学技術	2年	前期～後期	野尻 千恵	17	看護師	1.健康障害が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、小児の症状・検査・処置に応じた看護援助の方法と看護アセスメントを学ぶ。 2. 小児と家族のおかれた環境、生活に適應できるための援助技術を学ぶ。 3. 小児の成長・発達をふまえたアセスメントができ、個々の小児に応じた看護が展開出来るための看護における臨床判断を学ぶ。 4. 事例を通して子どもと家族が地域で生活するために必要な看護するための看護における臨床判断を学ぶ。	1	30
					草場 昂	13	看護師			
					馬場 若美	21	看護師			
	母性看護学	母性看護学概論	1年	前期	豊田 晴子	25	看護師・助産師	1. 母性看護の対象を理解し、母性看護の意義を学ぶ。 2. 母性を取り巻く社会情勢と法制度、施策、母子保健の動向を理解し母性看護の役割を学ぶ 3. 各年齢層における身体的、精神的、社会的変化を理解する。 4. 母性における倫理的課題を明かにする。	1	30
					竹若 瑞子	21	助産師			
		母性看護学方法論	2年	前期	小山田 加奈子	22	看護師・助産師	1. 妊娠・分娩・産褥期における対象理解、正常分娩の経過と健康の保持増進の看護を学ぶ。 2. 新生児の生理的特徴及びアセスメントと看護を学ぶ。 3. 事例をもとに新生児と母親の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。	1	30
		母性看護学技術	2年	前期	東島 利紀	35	医師（産婦人科専門医）	1. 妊娠期・分娩期・産褥期の異常及びハイリスクな状況の人々の分娩経過とその看護及びハイリスク新生児の特徴を理解し、適切な看護を学ぶ。 2. 女性特有の女性器疾患と看護を理解する。 3.母性看護で必要な看護技術を学ぶ。4. 事例を通して新生児と母親が「地域で生活するために必要な看護をするための看護における臨床判断を学ぶ。	1	30
					小山田加奈子	22	看護師・助産師			
	精神看護学	精神看護学概論	1年	後期	皆元 謙治	15	看護師	1. 人間のこころのはたらきと発達、発達課題、現代におけるこころの問題を学ぶ。 2. 精神保健医療を取り巻く社会情勢と法制度、施策、および精神を病む人への権利を理解し精神看護の役割を学ぶ。 3. 精神科医療における倫理的課題を明らかにする。	1	30
					小山 宏子	7 26	精神保健福祉士 精神科ソーシャルワーカー			
					田中 みとみ	51	看護師			
		精神看護学方法論	2年	前期・後期	田中 みとみ	51	看護師	1. 精神症状と精神疾患を学び、入院から退院・地域での生活を含め精神を病む人へ対象に応じた援助の看護援助を学ぶ。 2. 精神科での検査、治療を理解し、精神を病む人への適切な看護を学ぶ。 3. 事例をもとに精神を病む人の看護を行う上での倫理的課題を明らかにし対処方法を学ぶ。	1	30
					皆元 謙治	15	看護師			
		精神看護学技術	2年	後期	平山 顕行	22	看護師	1. 患者と看護者関係を築いていく上で必要な自己理解、他者理解のための知識・技術・態度を学ぶ。 2. 事例を通して精神を病む人が地域で生活するために必要な看護をするための看護における臨床判断を学ぶ。	1	30
					皆元 謙治	15	看護師			
					小山 宏子	7 26	精神保健福祉士 精神科ソーシャルワーカー			

授業科目			配当年次・学期		講師名	実務経験年数	専門領域	授業科目概要・目標	単位	時間数
領域横断	看護的 思考の基礎	看護的 思考の基礎	1年	後期	堀内 幸代	11	看護師	看護を実践するにあたり、看護と看護に必要な基礎要素や看護理論を使って、対象やその場の状況を判断し、看護として介入をすることが必要である。そこで、看護を実践するため基礎要素や看護理論、その他看護に必要な知識と看護実践の思考過程の関係性を明らかにし、それらを使いながら看護を考えることができるための基礎を学ぶ。 1. 考え方の基礎となるクリティカルシンキングとメタ認知について学び、クリティカルシンキングを使って考えるための使い方を学ぶ。 2. 看護におけるものの考え方の基礎となる看護過程について学び、事例を使い実践できる。	1	30
			1年	後期	田中 芳明	43	医師	看護を実践する中で最も重要な「安全」の視点から医療安全の取り組みの実際及び医療事故発生メカニズム、医療事故を未然に防ぐための方法まで系統的に学ぶ。 1.医療安全を学ぶことの大切さと共に事故発生メカニズム、事故防止について学ぶ。 2.医療事故を起こした時の対応方法について学ぶ。 3. 自らが起こしたヒヤリハット事例を使って、インシデント分析を行い、原因を明らかにできる。	1	15
					熊添 智春	20	看護師			
			1年	後期	堀内 幸代	11	看護師	看護倫理の基礎的考え方は看護概論Ⅰで学び、その後実習を経て自らが経験した場面を倫理的視点で振り返り、そこに含まれる要素を明らかにし、倫理的課題を考えていくことを繰り返し行い身につける 1. 自らが経験した実習場面を振り返り、そこにある倫理的問題を明らかにする。 2. 倫理的問題へのアプローチ法を用いて考える。 3. 倫理的ジレンマに気づき、倫理的ジレンマへの向き合い方を学ぶ。	1	30
			2年	後期	朝倉 美弥香	24	看護師	専門基礎分野の「看護臨床判断の基礎」の科目で身体の機能と働きが病気によってどのように変化し、症状して現れるかの学びを受け、薬物療法・栄養療法・放射線療法など療法による患者の心身への影響や、看護について学ぶ。また、セルフマネジメントの確立のための看護の考え方と介入方法を学ぶ。 1. 事例を用いて薬が用いられる疾患の理由と投与前の準備から投与後の経過観察まで一連のプロセスを理解し、適切に使用できるように学ぶ。 2. 事例を用いて栄養療法がおこなわれる疾患の理由と食事療法での看護としての留意点を学ぶ。 3. 事例を用いて放射線療法が用いられる疾患おの理由と放射線療法前・中・後の一連のプロセスを理解し看護を学ぶ。 4. セルフマネジメント支援のために、学習支援の理論を理解し技法を学ぶ。	1	30
			2年	前期	伊藤 哉女他	17	看護師	家族を看護として支援するために理論と看護展開方法を学ぶ。 1. 家族看護の対象を理解し、家族看護を支える理論と介入方法を学ぶ。 2. 事例を通して、各場面での家族への看護介入を考え、実践できる。	1	30
			3年	後期	伊藤 哉女	17	看護師	1. チーム医療の必要性、目的、意義について理解する。 2. 専門職連携と協働について理解し、チーム医療の実際を学ぶ。 3. 退院に向けての事例を通して、他職種の見解を聞き看護の視点と異なる見解を聞く。他職種の見解を参考に支援の方向性を探る。（医師会病院のデジタルと看護師にグループワークに参加してもらい意見を聞く）	1	15
統合分野	看護の統合と実践	看護技術統合	3年	前期～後期	池田 陽子	9	看護師	状況を判断し、最善の看護を行うために既習の判断のプロセスを使って看護を実践する。 1. 対象の状態を既習の知識を組み合わせ理解し、必要な看護を判断し実践できる。（特に日常生活援助技術） 2. 臨床に近い状況を既習の知識を組合せ理解し、今看護師としてできることを判断し実践できる。（多重課題への取り組み）OSCEを用いての試験を実施する。	2	60
			3年	前期～後期	牛島 けい子	24	看護師	1. 既習の知識・技術・態度を統合し望ましい臨床実践マネジメント基礎能力を身につける。 2. チーム医療及び他職種との協力の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。	1	30
					馬場 若美	21	看護師	3. 看護の広がりとして、国際社会において看護師として諸外国との協力を考え異文化を理解し文化を考慮した看護を学ぶ。看護師として、よりよい社会づくりに貢献することの意味を考える。		
			3年	前期～後期	渡邊 隆明	26	看護師	1. 災害サイクル各期の看護の基礎知識を理解するとともに各領域の対象が被災した場合の看護について学ぶ基本とする。 2. 被災して避難した場合の避難所での看護の必要性を学ぶ。 3. 災害現場でDMATとして実践を行っている看護師に災害時での看護の実際を学ぶ	1	15